

History

キラリを再発見

明治時代に発見された横穴群

中田西ノ谷横穴群は、比木地区の中田西ノ谷と佐倉地区宮内地内の薩田ヶ谷の間の小さな谷の南東側斜面に立地しています。

明治39年5月12日の「静岡民有新聞」に、土器数十と多くの人骨と耳環、皿、茶わんが出土したとの記事が掲載されていることから、この時に発見されたと考えられます。また、昭和5年に刊行された、旧「静岡県史」には、比木村中田ヶ谷に横穴があることが記録されています。

谷奥の尾根近くのA群1～3号墳と、そこから50m程手前の丘陵中腹に開口しているB1号墳の、合計4基の横穴の所在が確認されています。

出土遺物は、古墳時代後期(6世紀中頃から7世紀中頃)までの須恵器が24点と直刀の一部が教育委員会に残されています。これらの遺物は、明治39年に出土したのですが、当時の出土状態についての記録がないため残念ながら中田西ノ谷横穴群のどの横穴から出土したものか特定はできません。

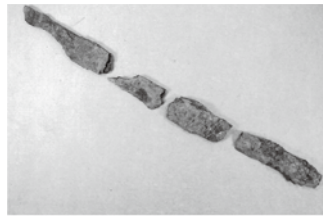
照 会 社会教育課 ☎0548③1129



▲中田西ノ谷横穴群 B1 号墳の現状



▲中田西ノ谷横穴群出土の須恵器



▲中田西ノ谷横穴群の直刀の一部



▲使用済み燃料を専用容器に入れ、輸送する様子

中部電力は2月26日、浜岡原子力発電所2号機内で貯蔵していた使用済み燃料の搬出を終えました。これで廃止措置中の1号機・2号機内のすべての使用済み燃料がなくなり、廃止措置計画が一つの節目を迎えました。

2号機の使用済み燃料貯蔵プールで保管されていた最後の使用済み燃料は、無事に5号機の使用済み燃料貯蔵プールへと移送されました。すでに1号機の使用済み燃料は、昨年1月24日に移送を完了しています。

Atomic

暮らしと原子力

2号機の使用済み燃料搬出を完了